

研究課題名	門脈圧亢進症における Transient elastography を用いた脾硬度測定の意味
研究の意義・目的	門脈圧亢進症の診断に超音波を用いた脾硬度測定が有用かどうかを検討します。
研究を行う期間	研究実施許可日～2027 年 3 月 31 日
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2024 年 3 月までに大阪公立大学医学部附属病院へ、門脈圧亢進症のため受診された方が対象となります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 ①患者基本情報：年齢、性別、診断名、既往歴、身長、体重 ②慢性肝疾患に関連する既往歴（慢性肝炎、肝硬変およびその治療、輸血歴、アルコール多飲歴等） ③臨床診断（臨床診断名、診断年月、診断根拠、肝機能障害の診断） ④血液検査結果：CBC (Hb, PLT, WBC含む)、WBC分画、血液生化学検査 (AST, ALT, BUN, CRE, UA, $\gamma$ -GT, T-Bil, NA, Cl, K, Ca, Pなど)、蛋白分画 (TP, ALB)、血液線維化マーカー（ヒアルロン酸, M2BPGi, 4型コラーゲン7S, FIB-4 index, オートタキシンなど）、腫瘍マーカー (AFP, PIVKA-IIなど)、その他血液検査 (HCV抗体, HCV-RNA, HBs抗原, HBV-DNA, IgG, IgM, 抗核抗体, 抗ミトコンドリア抗体など)、凝固因子 (PT, APTT, AT-III, FDP, D-ダイマー, von Willebrand因子など) など ⑤上部消化管内視鏡検査、治療歴 ⑥肝静脈楔入圧較差 (hepatic venous pressure gradient: HVPG) ⑦腹部超音波検査：肝・脾硬度測定 (FibroScan, shear wave elastography, Real-time Tissue Elastographyなど)、Superb Micro vascular Imagingによる血流評価 ⑧画像検査 (CT, MRI, MRE, 肝脾体積、肝アシアロシンチグラフィ検査、血管造影検査など)
試料・情報の 提供を行う機関の 名称及びその長の 氏名 (提供元について)	機関名：公立大学法人大阪 大阪公立大学 機関の長の氏名：理事長 福島 伸一
提供する試料・ 情報の取得の 方法	診療の過程で得られた診療情報
提供する試料・ 情報を用いる 研究に係る 研究責任者	研究責任者：大阪公立大学大学院医学研究科 肝胆膵病態内科学 小谷 晃平
試料・情報を 利用する者の 範囲および 管理について 責任を有する 者の研究機関 の名称	この研究は、公立大学法人大阪大阪公立大学大学院医学研究科 肝胆膵病態内科学のみで行います。 【研究責任者】小谷 晃平

<b>本研究の 利益相反</b>	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
<b>研究に協力をしたくない場合</b>	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
<b>連絡先</b>	大阪公立大学大学院医学研究科 肝胆膵病態内科学 担当者氏名：小谷 晃平 電話番号：(06) -6645-3905 メールアドレス：kotanikohei@omu.ac.jp